

花 いっぱい

教育目標《子どもたちに 夢 笑顔 やる気 元気を！》

AEFAの方々が東京から来てくださいました



「人・もの・こと」との出会いや体験活動から学ぶ学習を進める中で、毎年取り組んできたのが、起業家教育プログラム「会社をつくろう」の実践です。子どもたちは、高学年になったら、「会社をつくろう」の学習にしっかりと取り組み、これまでの先輩のように、ラオスのピアラー小

学校へ支援をしたいという強い思いをもっています。

その橋渡しをしていただいているのがAEFA（アジア教育友好協会）のみなさんです。4年前に一度、ラオスからNGOの方をお連れいただき、現地の子どもたちの暮らしや教育事情を教えてくださいました。今回（10月6日）は、谷川理事長と穴戸さんのお二人が、映像を交えながら、高野尾小からの支援金が有効に使われていること、ピアラー校の子どもたちが感謝の気持ちを持ち、一生懸命に勉強していることを伝えてくださいました。AEFAの活動（アジアの山岳・高原地帯に学校を創り、育てる）への強い思いも語ってくださいました。

子どもたちは、お二人の考え方や実行力に感銘を受けると同時に、信念を持ち、夢や目標に向かって生きることのすばらしさや、たとえどんな小さなことでも「人の役に立とうとする」気持ちはかけがえのないものだということなど、たくさんのことを学びました。

全国学力学習状況調査の結果について

4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が届き、本校の傾向について分析しました。本調査は、「各学校及び児童生徒一人ひとりの学力や学習状況を客観的に把握・分析することにより、教育指導の充実や学習状況の改善に生かす」ことを目的とし、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われるものです。また、「本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと」を踏まえたうえで、子どもの生活習慣や学習習慣を改善していくことをねらいとしています。

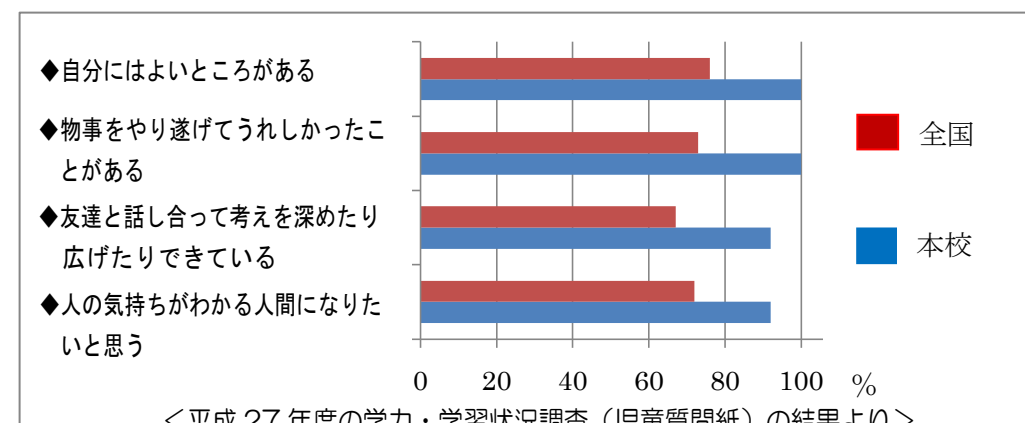
「教科に関する調査」では、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。「国語A・算数A」では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心に問題が出題されます。「国語B・算数B」では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など（主に「活用」に関する問題）を中心に問題が出題されます。

本年度は理科の学力調査も行われましたが、理科についてはA・Bの区分はありません。「児童質問紙調査」は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。



本校の調査結果を全国との比較で見ると、国語A・B、算数A・Bともに全国平均を上回っていました。また、学習への興味・関心が高く、国語・算数ともに、「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」と答えた児童の割合は全国平均をかなり上回ります。授業の「めあて」の明確化や、「振り返り」を重視したこと、「問われていることを明確にとらえさせる」、「自分の考えを言語化させる」等の指導に力を入れたことなどの成果ではないかと考えます。

理科については、残念ながらやや低い結果で、「物質」の分野、「実験」に関する問題に特に課題が見られました。実験や器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解する指導において工夫・改善が必要であることが分かりました。



＜平成27年度の学力・学習状況調査（児童質問紙）の結果より＞

上のグラフは児童質問紙の集計結果の一部ですが、肯定的な回答の児童の割合が非常に高く、自己肯定感、他者への理解や関心が高いことが分かります。日本の若者は、諸外国と比べて、自己を肯定的に捉えている者の割合が低い」（内閣府「子ども・若者白書」より）ことが問題視されていますが、本校では今年も児童の自己肯定感が高いという嬉しい結果が出ています。

また、「ニュースをよく見る」、「友達の前で発表することが得意」、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする」、「読書が好き」と答えた児童の割合も全国平均よりかなり高く、周りの人や社会への関心とともに、コミュニケーション能力が育ってきたことが読み取れます。さらに、「学校に行くのが楽しい」、「学校のきまりを守っている」、「家で学校の宿題をしている」、「人の役に立つ人間になりたい」、「いじめはどんなことがあってもいけない」などの項目においても肯定的な回答が全国平均をはるかに上回り、規範意識や倫理観の高さが窺えます。これらは、本校が地域の方々に支援していただきながら取り組んでいるキャリア教育の成果の一つではないかと考えます。

全国的な傾向として、「予習・復習をしっかりとする」、「テレビ、ビデオ・DVD、テレビゲームの視聴や、携帯電話・スマートフォンでの通話やメールの使用が短い」児童・生徒ほど、すべての教科で正答率が高かったという結果が出ています。

今後も、学校教育が一層充実するよう努めるとともに、家庭学習も宿題だけに終わるのではなく、学年に応じて自主的な学習が進められるよう働きかけていきたいと思ひます。ご家庭でも、アウトメディアデーの取組や「家庭学習のしおり」などを参考にしていただきながら、ご支援や励ましをお願いいたします。

